

報発信に大きく寄与している」と考えている。そして「空と大地のカーニバル」のようなイベントでは、道の駅やJA倉敷かさや等と連携して干拓地産の農産物販売や情報発信にも貢献している。今後とも活性化に向けて、有効な活用を推進したい。

笠岡駅前商業地の活性化について

議員 イベント開催が唯一の集客手段となり、にぎわいも単発的で地盤沈下が進み、近い将来消滅が予想されるこの商店街をどうするのか。様々な住宅、店が混在し商店街の性格を失いつつあるこのエリアに対し、行政としての本音の見解を示してもらいたい。

市長 今後は商業者自らの社会的ニーズの確かな把握、近県に無いオンリーワンの店舗づくりが必要であり、現在、商店街等とネットワーク会議を開催し、にぎわい創出に努めている。引き

続きこの活動に取り組んでいくとともに、創業を支援する制度等を充実させ、活性化に取り組みたい。

東川三郎議員



道徳教育について

議員 本市独自の道徳教育の充実ができるかたずねる。
教育長 子どもが花や野菜を栽培する活動等、豊かな心を育む総合推進事業を長年実施しており、こういった活動を通してながら道徳性を養っていくことは本市独自のものと考えている。

国民健康保険について

議員 今年度の改正は高所得者に絞られているように見えるが、今後の見通しについてたずねる。

市長 被保険者数の減少による保険税額全体の減収、被保険者の高齢化比率の増加等に伴い、治療費に当たる保険給付費が伸びている傾向もあり、今後の国保会計は大変厳しい状況である。
議員 消費税が8%に上がり当然医療費は上がる。各市町村の状況を市長会等を通じて国に訴えているのか。
市長 国保税の広域化の検討も含め、逼迫している現状を今後も訴えていく。

協働のまちづくりについて

議員 協働のまちづくりを実施して2年が経過した。市が考えている方向に進んでいるかどうかたずねる。
政策部長 ようやく新しいまちづくりへの意識が芽生えてきていると考えており、課題もあるが、行政も含め全体でまちづくりに取り組んでいきたい。

災害協定について

議員 県は岡山県建設労働組合岡山支部と災害協定を結んだ。本市は県の施策に乗るのか、独自の方向性を打ち出すのかたずねる。
市長 現在、岡山県建設業協会笠岡支部と、災害時における応急対策業務の実施に関する協定書を締結しており、災害時応急措置等の速やかな対応を実施しているところである。

一方、県が岡山県建設労働組合と結んだ協定書は、本市の協定とは趣旨が異なっており、個別に協定を結ぶ必要はないと考えている。ただし、災害救助法の規定により、被災した住宅の応急修理をはじめ救助の一部を県知事から市町村長へ委任されることも想定でき、仮に委任された場合は岡山県建設労働組合に対し、被災した住宅の応急修理に関する協力を求めることになると考えている。

山本俊明議員

議員 ①建替えの具体的な作業に入るのは何年度を考えているのか。
②公的病院として政策医療を行う地域の医療機関としての市民病院を、市長はどう思い描いているのか。
市長 ①国・県との整合性を図るため、県が策定する地域医療ビジョンを踏まえた後、計画に着手したい。
②中核病院として救急受入れ、在宅医療、島しょ部医療、災害時医療等の政策医療を受け持ち、治療のみならず保健予防や介護・福祉サービスに積極的に関与し、地域全体で地域住民をサポートする地域完結型の病院にすることが今後の市民病院

笠岡市民病院について

